

# 環境問題を構造的に理解する 新聞活用のありかた

～環境問題が「わかる」「ひろがる」「つながる」媒体としての新聞活用～

実践校第1年次 エクセラン高等学校 竹内久代

## 1 本校のNIEの現状

H19年度、「環境科学基礎」の学習で、環境問題をより具体的に自分の問題として理解するために、新聞を利用し始めた。新聞で目を通すのがTV欄のみという生徒がほとんどで、家で何新聞を取っているのかという質問に答えられない状況であった。環境問題に関すると思う記事を切り抜いてくる課題を繰り返し、環境問題の分野ごとに記事内容を分類する頃になると、友達との違いなどから新聞社の違いを意識するようになった。環境問題については、「温暖化」「酸性雨」「ゴミ問題」という言葉は聞いたことがあるが、遠い世界の問題として意識されており、地球レベルの問題と地域レベルの問題などの構造が理解されにくい状況が、新聞を利用することで、自分自身考えなくてはならない問題として意識された。

H20年度は実践指定校になり、昨年同様「環境科学基礎」の授業での新聞活用を中心に、全校では次のような新聞活用が見られた。

授業での新聞活用	環境科学基礎 国語表現 保健 グリーンライフ	環境問題に関する記事 社説 環境・公害問題など 市民農園など
HRでの新聞活用	冬季休業中の課題 大きな出来事 進路(小論文) 記事の切り抜きで4コマ漫画(美術科・福祉科)	今年のニューストッ5 会社の人員整理など 斜面 天声人語 など 生徒が選択
その他	生徒会委員会 お便りづくり 校友誌づくり(新聞形式の特集)	

活発な利用ではないが、新聞が置かれている図書室に、昼休みになると毎日のように新聞を読むに来る生徒が見られた。

## 2 NIEで高めたい力(環境問題理解へのNIE導入において)

現在の生徒の姿	新聞記事導入後予想される生徒の姿
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 新聞にはほとんど目を通さない。</li><li>・ 環境問題のことは知っていても、自分とは無関係だと思っている。 (知識として理解している)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 新聞に目を通すようになる。</li><li>・ 記事の内容を読み取り内容把握ができる</li><li>・ 身近な社会問題でもあることに気がつく。</li><li>・ 自分も加害者であることに気づく。</li><li>・ 環境問題の多面性や構造的性を理解する。</li><li>・ 自分にもできることがあることに気づく。</li></ul>

### 3 研究概要 ～「環境科学基礎」での新聞活用～

#### (1) 対象講座人数・対象講座(授業)内容

本校普通科は特色ある4コースに分かれており、各コース独自の必修授業が設けられている。環境園芸コースでは2年生で学校設定教科である「環境科学基礎」の履修が義務づけられており、近年大きな社会問題である環境問題について学習している。「考える力」「理論と現実を結びつけられる力」「いろいろな情報を引き出し選択しまとめる力」「自分の意見をまとめる力」をつける大切な教科になっていると同時に、進学先決定の要因を持っている授業・コースである。

対象講座 普通科環境園芸コース 2年21名 3年22名

#### (2) 授業での取り組み

平成19年度新聞活用の反省から平成20年度の新新聞活用の方向性

平成19年度反省された課題	平成20年度新聞活用の手立てとねらい
*最後まで記事内容を読まずに、 写真や印象的な見出しで切り抜く。 * 教師主導の切り抜き記事が大半 * 教師主導の記事分類 * 切り抜き記事としての利用 * 特定の新聞対象 * 単発的な利用	* キーワードを書き出しながら切り抜くことで 最後まで記事を読む姿勢をつける。 * 生徒の切り抜き * 生徒による記事分類 * 切り抜きと新聞全体としての利用 * NIE 実践指定校になり、学習対象新聞が多様化 * 体系的な利用

#### (3) H20年度 新聞を取り入れた授業をする上で特に工夫をしたこと

- ① 1年間通して流れのある新聞活用  
教科の年間指導計画の中に新聞活用を位置づけた。
- ② 「新聞の記事の活用」「新聞機能の活用」「新聞づくり」という段階を踏みながらの新聞活用
- ③ 生徒が収集した新聞記事を主体とした活用

### 4 実践の紹介

「環境科学基礎」年間授業総数65時間(テスト時間を含む)中、新聞を活用した授業数は20時間。その他毎週の記事収集やキーワードについて調べてくることなどは家庭での課題であり、新聞へのまとめなどはグループごとに放課後の時間を使っており、数値で表す授業数以上に新聞活用の時間があった。



また今年度は、新聞のいろいろな活用を1年間通し、1つ1つの活用を学習内容(教科書内容)と関連つけたことと同時に、それぞれの新聞活用学習同士関連づけながら行ってきた。


したがってこの報告書では新聞を活用した「ある単元」「ある時間」という紹介ではなく、年間通して学習内容・教科書での学習過程と並行して新聞活用を位置づけ、年間通して新聞活用を利用してきた1年間の全体成果を紹介する。


2 H20年度の「環境科学基礎」での実践過程 <上記の①②に関わって>

	教科書・実験・観察など	学習内容	新聞活用
1 学 期	教科書 1-1 環境のとらえ方 1-2 環境問題と 環境学習 1-3 学校の周りの環境 <学校周辺の 緑地調べ> <土壌実験> 畑・田・森林	環境のとらえ方を 理解する。  自然と人間関係に ついて考える。  生物と環境の関わり を、生態系の仕組み から考える。  生態系の特徴を とらえる  水循環から上流と 下流のつながり理解	<第1 新聞記事の収集> 環境問題に関すると思う記 事を毎週2つ以上切り抜く (課題)  <第2 キーワード抜粋>  <環境問題キーワード集> 切り抜いた新聞記事の中で気 になったキーワードについて 意味を分担して調べ、そのキー ワードが書かれている新聞記 事と対応させた「辞典」を作る。
2 学 期	2-3 地球環境と人間生 活  <酸性雨の実験>   <廃油利用活動> *せっけんづくり *ロウソクづくり	地球環境問題と人間生 活の関係を考える	<第3 新聞記事の分類学習> 収集した記事を以下の視点で 分類することで、環境問題を具 体的に理解し、解決の可能性を 考える。 ① 生物多様性の減少 ② 大気環境の変化 ③ 水質環境の変化 ④ 土地利用(森林含)の変化 ⑤ それぞれの対策・対応



新聞活用授業	生徒たちが「わかったこと」「気づいたこと」
<p>第1 記事収集</p> <p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日新聞に目を通す</li> <li>・教科書の内容と現実(環境問題の実態)が結びつく。</li> <li>・環境問題についての新しい語句や情報を知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境問題に関係する記事が、ほとんど毎日のっている。→思っていた以上に深刻</li> <li>・地球レベルの問題や対策と地域レベルの問題や対策があることに気づく</li> <li>→身近な(他人事でない)問題であること</li> <li>→自分でも何かできることがある</li> </ul>
<p>第2 キーワードを拾いながら新聞記事を読む</p> <p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真や言葉だけで判断せず、最後まで記事を読んで判断する。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初は動物や植物の写真、「環境」「二酸化炭素」という言葉に反応して、記事内容を読まずに記事を切り抜いていた。</li> <li>→気になった記事を、内容まで目を通して判断するようになった。</li> <li>・環境問題に関する語彙が増えた。</li> <li>二酸化炭素排出枠取引、フードマイレージ、地産地消、など</li> <li>→環境問題に関する言葉や知識が広がった。</li> <li>→さらにその言葉について詳しく知る学習の方向性が分かる。</li> </ul>
<p>第3 新聞記事の分類</p> <p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した環境問題の概論と記事の内容を結びつけて理解できる</li> <li>・地球規模と地域規模の違いに気づく</li> <li>・環境問題の連鎖性と複雑性に気づく</li> <li>・対策のレベルに気づく</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の項目のように、新聞記事の環境問題はきれいに分類できない。</li> <li>→環境問題の構造は複雑であることに気づく</li> <li>→地球環境レベルの問題と地域レベルの問題がある。</li> <li>→環境問題対策には、国際レベルと行政レベル・企業努力・ボランティア・個人レベルなどがある。</li> </ul>

<p>第4 新聞の面と環境問題の関係調べ</p> <p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞機能の理解 (「面」の存在・「面」の特徴理解)</li> <li>・環境問題・対策の社会的分野の特徴を知る (国際面の環境問題と地方面の環境問題の違い・経済面に載る環境問題の特徴を知る)</li> <li>・環境問題の多面性を知る</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞には「国際面」「経済面」「文化面」「社会面」「地方面」などがあることに気づく。</li> <li>・新聞によっては「環境面」を週1回設定したり環境問題特集が目立つ。</li> <li>・経済面には環境問題なんて関係ないと思っ てたが、エネルギー関連や省エネのための製 品開発などの記事がある。など、新聞の面ご とに記載される環境問題の特徴があることに 気づく。</li> <li>・全面広告面などに、省エネなど企業の広告 がある。 →環境問題は現代社会の大きくて深刻な社会 問題であることを認識する。 →国際協力・国対策・企業対策・個人の対策 などの具体的な現状が分かる。</li> </ul>
<p>第5 環境問題の特徴付け(根拠を持って)</p> <p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体化して理解を深めてきた環境問題の特 徴を5つの言語で表せる。</li> <li>・今まで収集した新聞記事や新聞活用学習を 根拠(媒介)にして考えられる。</li> </ul> 	<p>&lt;第1段階(個人)&gt;</p> <p>→今まで学習してきたことや新聞記事を根拠 にして自分で特徴を書き出せた</p> <p>&lt;第2段階(グループ)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各班でまとめた特徴 下の表</li> <li>→個人の意見を持ち寄って、グループで話し 合いながら特徴を絞れた</li> <li>→特徴の根拠を見出すときに、1年間学習し たことや収集した記事が関連つけられた</li> <li>・(例)人間が原因であり被害者であり解決主 体なんだ！自分に何ができるか</li> <li>・(例)過去・現在・未来の流れでとらえが必要</li> <li>・(例)地球レベルでありながら地域の問題でも ある</li> <li>・(例)原因も影響も対策も連鎖している</li> <li>→特徴をとらえる過程で、環境問題の構造性 を自分たちなりに感じる事ができた</li> <li>→自分が自然と共存する「自覚」が生まれた</li> <li>→他のグループのまとめ方や表現の仕方など を参考に、グループの特徴が表現できた。</li> </ul>

第6 新聞づくり・展示	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの特徴(視点)の貼りつけ方や矢印や文字の入れ方などで、自分たちの環境問題のとらえ方をわかってもらえるように工夫した。</li> <li>→人に自分の考えを伝える方法を考えられた</li> <li>→今年度環境について学習してきたことがつながりを持って理解できた。</li> <li>・新聞記事のトレード(自分の班の根拠としての必要性、他の班にとっての必要性)</li> <li>→他のグループのまとめを見あうことで、新聞が自分の考えの根拠としてだけでなく、新聞が他のグループとの会話の媒介となっていることに気づいた。</li> </ul>
<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特徴同士を組み合わせながら、環境問題の構造を考えられる</li> </ul> 	

環境問題の特徴付けの学習 新聞づくり

<p>一班</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界規模の問題</li> <li>・一方で地域の身近な問題</li> <li>・日々何かを失っていく問題</li> <li>・逆に増え続けることで生じる問題</li> <li>・人間が原因・被害者であり解決すべき主体である問題</li> </ul>	<p>二班</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間が起こした問題</li> <li>・人間の生活を脅かす問題</li> <li>・人間が解決できる問題</li> <li>・国境を超えた問題</li> <li>・地域の問題</li> <li>・待てない問題</li> </ul>
<p>三班</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しいビジネスチャンスとなる問題</li> <li>・目に見えにくい問題</li> <li>・つながりを生む問題(人同士・問題同士・原因が原因を生む・・・)</li> <li>・人間が生きるために解決すべき・解決できる問題</li> </ul>	<p>四班</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自業自得の問題</li> <li>・みんなで守っていかなければならない問題</li> <li>・おれの子供はどうなる??・・・問題</li> <li>・深い問題</li> <li>・早く取りかからねばならない問題</li> </ul>
<p>五班</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連動する問題</li> <li>・しつけと欲望の問題</li> <li>・エゴが招いてきた問題</li> <li>・避けられない問題</li> <li>・個人で解決できる</li> <li>・でも国際間で協力して解決する問題</li> </ul>	<p>六班</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昔から小さなことの積み重ねから生じてきた問題</li> <li>・未来に続く問題</li> <li>・協力が必要な問題</li> <li>・世界規模の問題</li> <li>・身近な問題</li> <li>・漠然とした問題</li> </ul>

## 6 研究のまとめ(実践の成果)

### (1) 成果の表し方

新聞を授業で活用したことで生徒についての力をどのように評価すればよいか常に迷っている。生徒たちは確実に力をつけていることは現場で感じるが、主観的な評価だと納得されないであろうという思いが付きまとう。数値化できることとできないこと、あるいは無理に数値化することが無意味なことなど混在する。本校はまだ実践 1 年しかたっておらず、気張らずにやったことや目にとまったことや生徒保護者の声が見えるまとめにしようと考えた。そこで今回次のような点に留意してまとめを行った。

- \* 学習に新聞を活用する目的・ねらいを絞ること
- \* 生徒の声や保護者の声から分かることに注目する
- \* 生徒のファイルの様子や学習時の表情・発言・グループでの会話・まとめられたものなど目に見えるものを記録して、そこから分かることに注目する
- \* 授業以外の対象生徒の生活(生徒会活動・進路決定など)の様子から分かることも注目

### (2) 学習のねらいについての成果

学習のねらいについての効果・成果	根拠
1 環境問題に詳しくなった(具体的にわかる)	* 生徒の意見 温暖化や酸性雨という言葉だけ知っていた →生態系の問題やいろいろな問題であることを知った。 →フードマイレージやポコや循環型社会など初めて知ることが多かった。
2 環境問題への理解が深まり具体的になった。	* 生徒の意見 問題が一個一個独立したものだった →問題の原因・影響・対応が整理されながら関係性が見え始めた。
3 環境問題の原因・解決の主体が人間であることに気づき、自分もその人間の一人であることへの意識が強まった。(自分の問題として)	* 生徒の意見 今までは自分に関係がないと思っていた よそ事だと思っていた →自分たち一人一人の問題。
4 環境問題の複雑さ・構造的な理解が深まった。	* 環境問題の特徴として「国際的」-「個人的に対応できる」「増えすぎることの問題」-「減ることでの問題」など、一見反対の特徴が競合することへの気づきがあった。
5 環境問題への興味関心が深まった。	* 自分の進路(進学先)で、太陽光発電あるいはソーラーカーやバイオ燃料などが研究で



	きる学校を選択する生徒数名。 * 生徒会委員会(役員)で出す雑誌などに、 自分たちの学習した環境問題の特集した。
--	--

## (2) 波及的効果

設定したねらい以外に、次のような効果があったと思われる。

考えられた効果	根拠
1 新聞を開くことが習慣化されてきている。	* 保護者の意見(多数) 親子で一緒の話題ができた。 親にとっても学習になった。 * 生徒の意見(多数) * 生徒の記事収集ファイルの量 * 環境問題以外の自分独自のテーマでの 記事収集
2 新聞構成の理解・興味関心が深まった。	* 新聞の「面」「版」への注目 * 全国紙・地方紙の特徴・それぞれの良さ
3 新聞のメディア特性を感じられた。	* 生徒の意見「テレビは映像があって印象 が強いけれど、すぐ忘れてしまう。新聞だと 見返すことができ、考える根拠となる」
4 作り手(伝え手)としての工夫が生まれた。	* 生徒会委員会のお便り作成時に「人にわ かりやすい配置や見出し」を意識して、新聞 つくりの視点や形式を取り入れた。
5 新聞からの情報を生かし、独自性のあるものを作り出す力が生まれた。	* 学校独自のエコカルタづくりに挑戦し、絵 札に自分たちが収集した新聞記事を利用。

生徒の反省(感想)や保護者からの反省など、生の声を、レター形式で表し、成果を表現した。

## 7 今後の課題

### ① 狭義の「わかる」「広がる」「つながる」

上記の成果を、環境問題が「わかる」「ひろがる」「つながる」というキーワードをもとに整理した。

わかる	* 環境問題の内容が具体的になった。 * 環境問題についてのキーワードが詳しくなった。 * 環境問題の複雑性が分かる * 環境問題の特性が分かる
ひろがる	* 環境問題について興味関心がひろがる。 * 環境問題をきっかけに、社会情勢などへ関心がひろがる

つながる	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 環境問題が個々バラバラの問題ではなく、つながっていることに気づく</li> <li>* 環境問題が今現在だけの問題でなく、過去からつながってきたことではないかと感じる</li> <li>* 友達と環境問題を考えたり自分の意見を表現する媒体として、新聞記事が活用できた。</li> <li>* 家庭で新聞記事を媒介に環境問題を話す機会が増え、家族とのつながりが生まれた</li> <li>* 地域の人に学習した内容を発表することで地域の方の環境問題の考え方工夫と新聞記事で知ったことがつながった</li> </ul>
------	--

来年度も「環境問題」をテーマにして、新聞を媒介としながら、環境問題の「わかる」「ひろがる」「つながる」をさらに深めていきたい。

←過去からつながってきたことではないか と感じていることに関して、過去の新聞を媒介に、環境問題の歴史をおさえたい。

←新聞に記載されている実際の地域の活動(人々)を取材して(話を聞きに行つて)、新聞記事と学習内容を結びつけながら、実際の活動と環境保全について結びつけていきたい。

## ② 広義の「わかる」「広がる」「つながる」にむけて

新聞活用をすることで今年度は波及的効果という言い方でまとめたが、この波及的効果こそ NIE の目指すところではないかと感じている。

←「環境問題」を、テレビ(映像印象)・インターネット(即時性・利便性)と新聞を比較しながら、それぞれの特性を考えたい。

←校内の職員が連携しての様々な新聞活用を考えたい。